

全体講演

学びの深まりをどう評価するか

—探究を支えるカリキュラム・マネジメントの展望—

講師 遠藤 貴広 (福井大学大学院 福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科 准教授)

評価は学びの羅針盤となるものである。よい地図があっても、羅針盤がなければ、探索・探検は続けられない。同様に、よい学びの地図があっても、羅針盤となる評価がうまく機能していなければ、探究は発展しない。ただ這い回っているだけであっても、這い回っていること自体に気づけないからである。

本講演では、カリキュラム・マネジメントの中でも特に学習評価の側面に注目し、探究によって促される学びの深まりをどのように捉え、新たな探究につなげていくか、一つの展望を示したい。

それは、市民性教育の視点から学習評価の言説を組み換える挑戦でもある。平和で民主的な社会の形成に向けて学習評価の営みをどう位置づけるか。一人ひとりが熟慮を続け、異質な他者と討議を重ねることを通して、互いの価値判断の規準を吟味・更新していくことの重要性を再確認しながら、これを促すカリキュラム・マネジメントの視点を探っていきたい。